第２章

地域の中から人材を発掘する取組

～　わが町わが村の「地域の担い手」発掘の活動事例　～

第2章　地域の中から人材を発掘する取組　～わが町わが村の「地域の担い手」発掘の活動事例～

地域の中から人材を発掘する取組として、県内 10 地区で取り組んだ「わが町わが村の『地域の担い手』発掘プログラム」を紹介します。

地域が主体となって、地域での担い手発掘プログラムを考え、実践してきた具体的な活動に焦点を当てて、その過程を紹介していますので、今後、人材の発掘、育成に役立ててください。

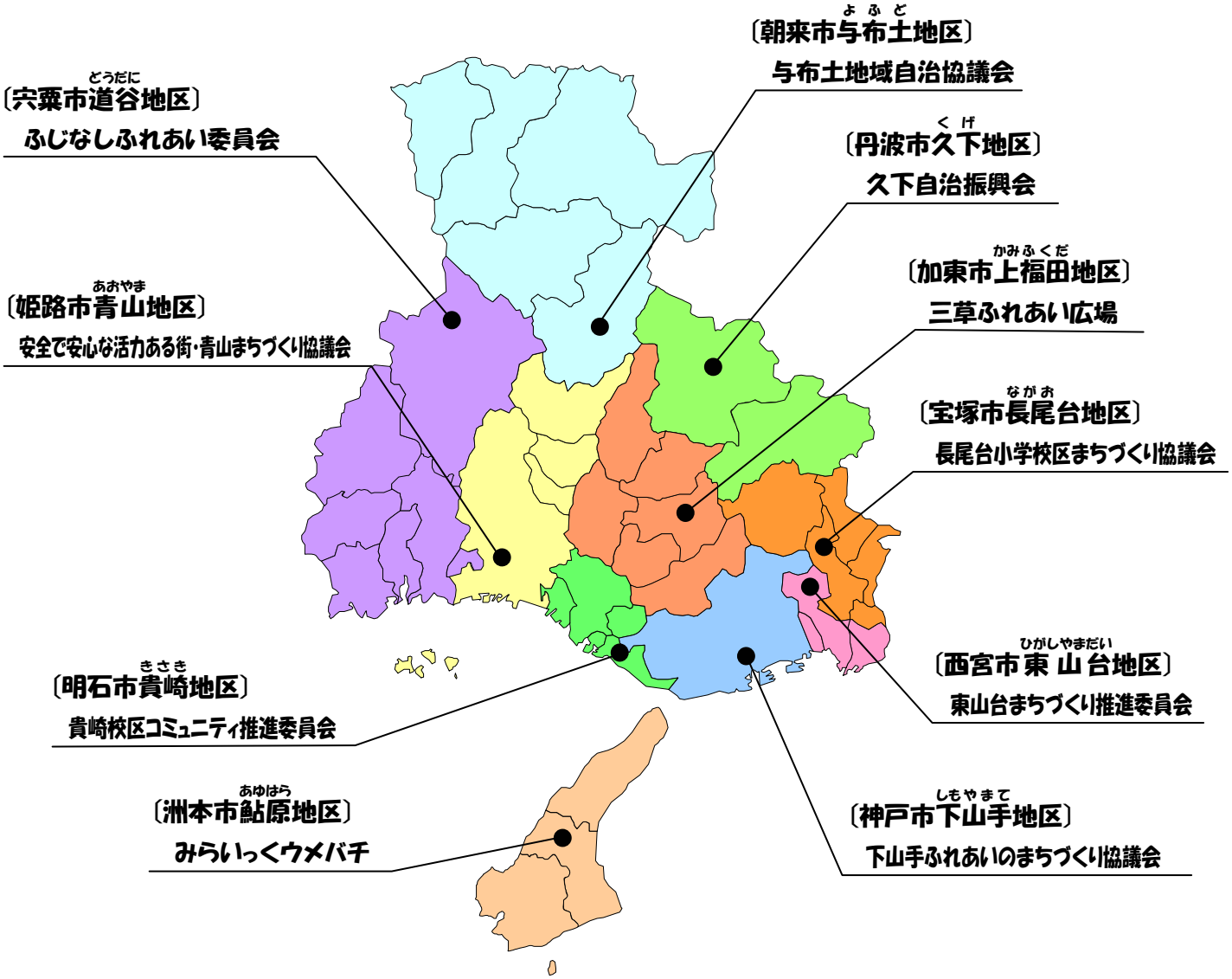
１　わが町わが村の「地域の担い手」発掘プログラムの概要

地域コミュニティの活性化のためには、次代を担う人材を見つけ出し、育てることが各地域に共通する課題になっています。（県民交流広場事業「評価・検証」（H20）より）

一方、地域の中には、様々な特技や職業経験（例：イベント開催、ホームページづくり、広報紙作成、会計事務など）を持ちながら、活動に踏み出せないまま地域に隠れている人材が多く存在しています。

そこで、各県民局１地区合計１０地区の県民交流広場にお願いし、地域リーダー等が、意欲はありながら埋もれている人材に声をかけて活動を呼び込み、一緒に地域を盛り上げていくプログラムを企画し、そうした人材が、地域コミュニティで活躍できるようにしていく、モデル事業を実施してもらいました。

《　わが町わが村の「地域の担い手」発掘プログラム　実施地区一覧　》



◆　地域で人材を育成・発掘するヒント

里山管理スタッフの養成

プログラムのヒント　〔取組地区〕西宮市東山台地区

○　里山管理に必要な知識、実習を網羅したﾘｰﾀﾞｰ養成ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑを作成する。
○　実習のなかで、受講者同士のコミュニケーションが図られるよう、グループ分けに配慮し、雰囲気づくりに努める。
○　リーダー養成講座と合わせて、交流会・懇親会を実施して交流を深め、地域コミュニティ全般のスタッフへと結びつける。

専門的な人材の発掘、養成

プログラムのヒント　〔取組地区〕宝塚市長尾台地区

○　地域活動の専門的な技能や技術を取得するために、次の担い手を研修会に参加させ、やりがいや責任感を持たせる。
○　ｽﾀｯﾌの技量を上げるための専門の講師を招いて、学習会等を開催する。
○　初めての人でも参加しやすい定例的なイベントをきっかけに、新たなスタッフを発掘する。

若者世代の連帯意識の推進

プログラムのヒント　〔取組地区〕朝来市与布土地区

○　今活躍している若者を核に、地域の若者を集め、「ふるさとの良さ」「ふるさとに必要なもの」を話し合い、地域を見つめ直す。
○　地域の素材を活かした遊び心のある交流会を企画し、若者の輪を広げる。
○　地域活動の意識付けとして、祭りなどの行事に参加し、地域の盛り上げに関わっていく。更には、若者独自で具体の地域づくりを展開していく。

マップづくりの活用

プログラムのヒント　〔取組地区〕加東市上福田地区、洲本市鮎原地区

○　マップの作成を通じて、地域の歴史や文化遺産等を知ることにより、住民の地域への愛着を醸成する。
○　住民が作成したマップを活用し、イベント（ウォークラリーなど）を開催し、新たなスタッフの募集を通じて地域づくり活動への参画を促す。
○　地域団体が連携したマップ作成により、内容の充実とｽﾀｯﾌを強化する。

伝統行事の活用

プログラムのヒント　〔取組地区〕神戸市下山手地区、宍粟市道谷地区

○　地域の伝統芸能を継承していく姿勢を大切にして、その活動のなかで人材を集め、地域を活性化させる。
○　伝統行事の担い手募集や活動内容を、チラシや HP 等で紹介することにより、新たな後継者を発掘していく。

新たなイベントの実施

プログラムのヒント　〔取組地区〕明石市貴崎地区、姫路市青山地区

○　子どもから大人まで参加できる様々な行事を企画・開催し、参加者にスタッフとして関わってもらい、その後の地域づくり活動へも誘い入れる。
○　イベントを一過性のものに終わらせるのではなく、ワークショップなどを活用して、行事のふり返りや、新たなイベントを企画し、具体の実践活動につなげる。

単位自治会長のスキルアップ

プログラムのヒント　〔取組地区〕丹波市久下地区

○　持ち回りでの地域団体の役員を対象に、会議のまとめ方や地域資源の見つけ方などの基本的なスキルを教える「リーダー研修会」を開催する。
○　自治会長に行ったアンケート調査を踏まえたワークショップを開催し、新たな企画を考える。

２　里山管理スタッフの養成

実施広場と主な指導者

東山台まちづくり推進委員会
委員長　福田　勝
ナシオン創造の森育成会
理事長　小西　一郎

人材発掘・育成のテーマ

都市再生機構から受託した里山管理事業での新たなスタッフの発掘と、地域づくり全般のスタッフへのきっかけづくり

人材の発掘・養成方法

〇里山管理の専門家による講習会の開催により、新たな里山を管理するスタッフを発掘、養成する。
〇新たなスタッフを地域交流の場への参加を呼びかけ、地域コミュニティ全般のスタッフに充実する。

取組の成果

不用な樹木の伐採、下草刈りや、植物などの調査等のための里山管理スタッフを発掘、養成するための導入プログラムを地域で策定。知識を習得する座学だけでなく、植生調査や伐採の技能が実習で体得できるリーダー養成講座を開催し、次世代の担い手を発掘・育成した。

ナシオン創造の森育成会スタッフを含め各講座に 34～39 名が参加。育成会スタッフの知識・意欲の向上とともに新たな里山管理スタッフとして 10 名の人材の発掘、育成ができた。

さらに、新たなスタッフを、地域コミュニティ全般のスタッフになるよう呼び込み、気軽に話のできる人間関係をつくるための交流会も開催した。

【リーダー養成講座（ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ）】

養成講座プログラムの策定、募集

東山台地区では、地域が独自に実施している事業の中で、特に新たな人材の発掘、養成を必要としている里山事業で、リーダー養成講座をシリーズで開催することにより、県の事業を受託することにした。

これまでに里山事業で培った情報や人的ネットワークで、里山に必要な知識、実習を網羅したリーダー養成のプログラムを地域リーダーが中心になり独自に作成。里山事業をきっかけに地域の人材を掘り起こし、コミュニケーションを深めるための交流会の開催も併せて開催することにした。

受講生の募集に当たっては、市の広報紙、チラシの配布などを通じて東山台地区だけでなく、塩瀬地区全域の住民に参加を呼びかけた。

第1回、第2回リーダー養成講座　21.9.5、11.21

「里山活動の意義」　（講師　服部　保　兵庫県立大学教授）
「植生調査」（ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ）（講師　服部　保　兵庫県立大学教授）
「里山活動と生物多様性」（講師　山瀬敬太郎　県森林技術ｾﾝﾀｰ）他

ナシオン創造の森育成会のスタッフを含め、それぞれ 34 名、37 名が参加。午前中は、里山の歴史的な背景、里山の機能、兵庫県の里山事業への取組や里山における植物の多様性、土砂災害の可能性、里山の保水効果など基礎的な内容の講義を受けた。

午後からは、実際に里山に入って、講師の指導のもと、受講者を３班に分けて「植生調査」を実施したほか、植物の多様性などを現地観察。

【リーダー養成講座（座学）】

【リーダー養成講座（材木伐採）】

第3回リーダー養育成講座　22.1.23

「正しい安全な伐木作業と事故事例の紹介」講師 播戸 忠玄氏
「正しい安全な伐木作業の実習」　（講師 同上　ほか）
「ナシオン創造の森活動報告」と懇談会

３９名が参加。実際に木を伐採する前に、安全な伐木のための留意点等の講義を受けた後、３班に分かれて、安全確認などのコミュニケーションをとりながら常緑樹等の樹木の伐採作業を実施した。

伐採作業終了後、すべての講義に参加した者に修了書を授与するとともに、懇親会を開催してさらに交流を深めた。このたびの講座参加者には、住民が気軽に集う「たまり場」への参加も呼びかけ、地域コミュニティ全般のスタッフへの活動も働きかけることにしている。

連絡先　：　東山台まちづくり推進委員会　TEL　0797-61-3615　FAX　0797-62-9117

実施広場と主な指導者

長尾台小学校区まちづくり協議会
（コミュニティひばり）
会　長　熊澤　良彦

人材発掘・育成のテーマ

北雲雀丘緑地を利用した野外活動、児童館分館の運営スタッフの育成、その他の地域人材の公募制度の実施

人材の発掘・養成方法

○里山公園を活用した野外活動指導者と新設される児童館分館のスタッフについて、候補者を公募し、研修会への参加や講座の開催等により、専門的なスキルを取得させる。
○上記に加えて、ふれあい喫茶などの地域の活動に必要な人材を公募し、登録する。

取組の成果

22 年度より宝塚市から管理を受託する北雲雀丘緑地で展開する野外活動プログラム、新設される市の子ども館分館の運営に必要なスタッフを地域から公募し、外部の機関等が実施する講習会等に参加させ、必要な資格を取得させた。こうした資格を持つことでやりがいや責任感も高まった。

また、自然観察会を定期的に開催することにより、地域の人が参加しやすい仕組みを構築し、新たな指導者候補の発掘にも努めた。

この他、安全部会、福祉部会、環境部会で実施する８事業で、公募による人材バンクを創設。

【自然観察会】

北雲雀丘緑地における野外活動スタッフの育成　　21.4～

市が整備する北雲雀丘緑地のうち、住民参画型エリアにおいて展開する野外活動の指導者を育成するため、環境学習プログラムとして世界各地で採用されている「プロジェクトワイルド」の講習会（8/29 開催）に参加し、エデュケーター資格を取得した。さらに、人と自然の博物館の実践活動から学ぶパークマネジメントゼミにも参加した。

また、偶数月の第２土曜日に現地で自然観察会を開催し、緑地内に生息する動植物を調査するとともに、観察会への参加をきっかけとした新たな活動スタッフの発掘、養成を行った。

ひばり子ども館ボランティアスタッフの養成（講習会の開催）　　22.1.31

平成 22 年４月に宝塚市の子ども館分館が新設され、その管理運営が地域に委ねられることに伴い、乳幼児や児童とともに一緒に遊んだり、相談相手となるボランティアスタッフを公募した。

今年度は、このスタッフのスキルアップを図るため、地域人材を生かしたユニークな児童館運営を行っている宝塚市中筋児童館館長を講師に招き、子育て支援の技術や態度などを学んだ。

今後はさらに、児童厚生員の資格取得を進める等、運営体制を強化していく。

【ボランティアスタッフ養成】

【人材募集チラシ】

人材募集ちらしの配布、人材バンクの登録　　22.2 月

上記のほか、各分野におけるコミュニティ活動を展開していくための人材を幅広く募集するため、具体的な業務内容を書いた人材募集ちらし（カラー印刷）を作成し、地域内の全戸に配布した。

具体的には、上記のスタッフのほか、交通安全や地域防犯に取り組む安全部会メンバー、ふれあい喫茶や高齢者等の日常生活のお手伝いをするお助け隊スタッフ等を募集した。

こうした地域の多様な人材をコミュニティひばり人材バンクとして登録し、活動の量と質を高めていく。

連絡先　：　長尾台小学校区まちづくり協議会　TEL / FAX　072-774-9191

実施広場と主な指導者

朝来市与布土地区
与布土地域自治協議会
会長　細見　守

人材発掘・育成のテーマ

自治協議会各部会の若者が横断的に活動し、若者世代の連帯と担い手意識の向上

人材の発掘・養成方法

〇かえるの郷部会やはぐくみの郷部会等で活動する若者を核に、新たな担い手を加え共同事業を行う。
〇若手メンバーによる意見交換会等を通じて若者世代の連帯や地域の担い手意識の向上を図る。

取組の成果

「若者全員集合」を合言葉に、ワークショップ形式による第１回意見交換会を８月に実施し、11 人が参加し、うち新たな４名の若者が加わった。第２回は、地域の魅力を確認する行事として、９月に地域の「米の食べ比べ」会を開催し、16 名が集まり、更に新しく若者が２名参加した。

一連の行事を通じて、新たな人材発掘と地域づくりの意識醸成が進み、地域の行事に若者グループとして参加したり、地域行事を企画・運営していく活動に発展している。具体には、若者グループが、案山子祭りに参加し、「与布土地域の明るい家族計画」をテーマに作品を出展し、最優秀賞を受賞するなど、参加者の地域活動への自信につながった。また、締めくくりとして、このグループで、与布土地域の「昔の写真の展示会」を行い、若者同士の連帯と地域づくりへの意識の向上を図った。

第１回若者全員集合ワークショップ　WSで次へのヒントを発見　21.8.29

【若者全員集合ワークショップ】

「与布土地域の若者全員集合！」を合言葉に、高校生から４０歳代の若者を対象に、与布土地域を考えるワークショップを開催。これまでのメンバーが声かけを行い、新たに４名が加わり、「与布土の良いところ」「与布土を良くするために私たちがするべきこと」など、非常にシンプルで考えやすいテーマを設定し、意見交換を行った。

意見を否定せず、一人一人に耳を傾け、地域の新たな発見や過去の取組を振り返り、次への参加へとつなげた。具体には、今回の真剣な議論の場を、遊びのある取組の場とすることで、自然に参加できるようにした。次回は、意見交換に話題から「お米の食べ比べ」を企画。

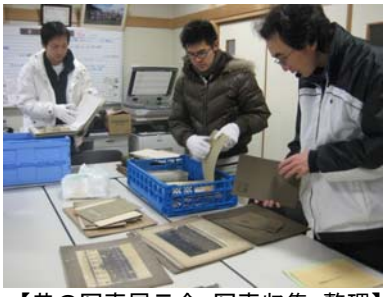
第２回若者全員集合「米の食べ比べ」　21.9.26

第２回は、遊びの要素を取り入れて、地域のお米の食べ比べを企画。前回の意見交換で話題となった地域の米の良さを確かめるため、１８種類の米を一人用釜で焚き、その味を食べ比べた。結果、与布土川水系の米が、最も高い評価を得た。

今回の行事が、気軽で参加しやすい内容であるため、更なる若者が参加するとともに、古民家“喜古里”を舞台に、お米の味をきっかけに、若者同士が、地域についての意見交換やコミュニケーションを図った。なお、行事の最後には、今何をすべきかを問いかける時間を設けながら、普段このように集まることのなかった若者が、過去２回の行事を経て、地域を盛り上げる案山子祭りへの参加や昔の写真展を提案し、具体の地域づくりに展開していく。

【お米の食べ比べ】

与布土地域の昔の写真展示会の開催　22.1～22.3


【昔の写真展示会:写真収集・整理】

地域ウォーキングの行事で、“喜古里”の離れを開放した際に、数多くの貴重な昔の写真が見つかったことから、若者の発案のもと地域の良さを発信するため「昔の写真展示会」を開催することになった。若者により、①昔の写真を収集・整理、②撮影の地点の特定と現状況の撮影、③写真解説文の検討、④展示作業等、が行われ、人材発掘から人材養成につながる取組が行われた。

具体的な地域活動の実践として「昔の写真展示会」の準備・開催や案山子祭りへの参加が、若者が自然に、地域の昔と今を知ったり、地域を見つめ直す機会ともなっている。

連絡先　：　与布土地域自治協議会　TEL / FAX　079-676-3030

実施広場と主な指導者

三草ふれあい広場
会長　　高橋　俊介
副会長　　三村　良三

人材発掘・育成のテーマ

「わたしの村の自慢マップ」の作成とマップの活用を通じた人材の発掘と育成

人材の発掘・養成方法

○地域に残る史跡、武家屋敷、自然環境など村自慢を記載したマップづくりのスタッフを、新旧住民の中から募り、交流を図るとともに併せて地域に愛着を持った人を発掘する。
○さらに、マップを活用した事業のための新たなスタッフを募集し、マップづくりスタッフとともに、住民自らが企画するワークショップを開催することにより、地域づくりの人材を発掘・養成する。

取組の成果

集落ごとにマップづくりに必要な情報を収集するスタッフを募集し、9 名が集った。区長、自治会長の協力のもとに、資料の収集、検討会、研修会を通じて、地域資源の再発見による驚きや地域に対する愛着が生まれた。スタッフの熱意とパソコン作業に詳しい人材等も加わったことにより、手作りによるマップが 12 月に完成した。

マップを活用した「ワクワク探検」に集まったスタッフ 15 名のほか、役員、マップづくりスタッフ等合計 30 数名によるワークショップを 2 回開催し、参加者自らが企画することによって、地域に対する関心や住民意識が高まり、効果的な人材発掘・養成が図られ、住民の企画力も高められた。

マップ編集研修会の開催　　**21.8.18**

【マップ編集研修会】

「わたしの村の自慢マップ」作成のために、9 地区の区長から推薦のあったマップ推進員や、マップ部会委員が、それぞれの地区で自慢できる史跡や神社仏閣、景観などの写真を持ち寄り、60 カ所もの資料が集まった。それをもとに、資料の選択、マップの構成、説明文章の検討等について、マップ推進員、マップ部会委員等による８回の検討会を重ね、さらに最終的な構成、編集のために、専門家を招いた研修会を開催した。

その過程で、知らなかった郷土の先人の偉業や歴史、景観に触れることによる感動、驚きとともに地域への愛着が深まった。

ワクワク探検の企画ワークショップ　　**22.1.23、2.6**

12 月に完成した「わたしの村の自慢マップ」を全戸配布して、成果を住民にお知らせすると共に、マップを活用した「ワクワク探検」実施の事業スタッフを募集した。

コミュニティ応援隊の岩木啓子氏を講師に招き、企画検討のためのワークショップを開催し、参加者自らが企画案を検討した。ワークショップでは、ワクワク探検開催の思い、背景、地域の状況、自分たちの持っている資源の強みや弱み、目標を確認しながら、地域コミュニティ活動への興味とやる気を引き出すものとなり、積極的な意見や地元を紹介したい、知りたいという強い思いにより、自ずと参加者合意の企画がまとまった。

【わくわく探検企画ﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ】

2010年(平成22年) 2月1日　月曜日　神戸新聞

源平合戦、孝女ふさ 顕彰碑…

上福田の魅力満載

加東の住民マップ製作

地元の史跡などを紹介する地図を制作した住民ら＝加東市上三草

ワクワク探検の実施　　**22.4.17**

ワークショップでは、地元住民には見慣れた景色も、都会から移り住む新住民にとってすてきな景色になり、それが地元住民への刺激となった。第１回は、新住民が住まう別荘地「やしろ台」を中心にした自然景観と史跡を巡るコースを設定した。自慢したいポイントには説明係を配置することにし、昼食時には、世代間交流を兼ねてバーベキューを行うなど、いずれも集まったスタッフ等から出された意見によって、みんなが納得し、関心度が高まる企画に具体化され、「やしろ台」にミツバツツジが咲き誇る４月 17 日に実施することになった。

新住民が地元に根付き、地元住民が手をつなぐことで、地域コミュニティ活性化のための人材発掘が効果的に図られた。

連絡先　：　三草ふれあい広場

実施広場と主な指導者

みらいっくウメバチ　会長　花岡幸男
マップ委員会　　委員長　堀　建夫

人材発掘・育成のテーマ

新旧住民が共同した地域のマップづくりによる新たな人材の発掘

人材の発掘・養成方法

○各町内会から選ばれたマップ委員が、地域の課題に対応したマップ作成の企画から作成まで行うことで、課題解決型活動のスキルを身に付けた人材を養成する。
○みらいっくウメバチ構成団体のマップ作成参画により、組織横断的に活躍する人材を発掘・養成する。

取組の成果

テーマ設定型ではなく、白地図にニーズに対応した情報をのせる手法をとったことで、マップ委員がテーマの設定から議論できる環境となった。

マップ作成の情報を「へその市」、各町内会長等に発信したことで、「要支援者マップ」「イノシシ被害マップ」の構想が出ており、課題に精通した団体との連携を通じた新たな人材の発掘が見込まれる。

なお、マップの作成を業者委託ではなく地域の人材で対応しようとしたことで、パソコンの操作にたけた者を地域の中から発掘できた。

町内会マップの作成　　**21.10～11**

【町内会マップ】

みらいっくウメバチのマップ委員を中心に、鮎原地区に関する様々なマップ（商店街、防災、通学路）に応用可能なように、ＰＣを使用したデータで作成することを計画した。

そのため地域内で呼びかけを行ったところ、ＰＣのスキルにたけた人材の協力が１名得られることとなった。

マップの作成に際しては、マップ委員会が実質的に立ち上がることとなり、男性の参加が多かった委員会でも女性の委員が積極的に役割を担う提案をするなど、意識の醸成が図られた。

へその市でのマップ配布　　**21.11.15**

作成した町内会区分マップを、地域の祭り「へその市」で配布した。

防犯や歴史探訪など具体的な用途に利用出来るマップではなかったが、事業の開始のステップとして、地域のイベントを通じて、住民にマップ委員の活動を広く周知と関心を高められた。

今後、このマップに地域のニーズに対応した情報を落とし、住民が集う場で配布しながら、住民のアイデアのフィードバックを得るなど双方向のかかわりを創出する。このマップの質とバリエーションを高める作業を通じて、住民を巻き込み、マップ作成のバックアップをするスタッフの発掘を目指す。

【へその市】

他団体との連携　　**22.3～**

【へその市】

他団体へマップ作成の情報を提供したことで、民生・児童委員が要支援者マップとして地図を活用する企画が持ち上がっている。来年度にはマップ委員と協働で作成することになり、他団体も巻き込んだ取り組みが始まりつつある。

本年度は、各委員が役割と責任を分担してマップを完成させるまでには至らなかったが、地域からは「イノシシ被害マップ」「防災マップ」などのアイデアが出ており、来年度からは、それぞれの分野の専門組織との連携、実践の中で機動的なマップ委員会となることを目指している。

連絡先　：　みらいっくウメバチ　　会長 TEL 0799-32-0601　　委員長 TEL 0799-32-0023

実施広場と主な指導者

下山手ふれあいのまちづくり協議会
委員長　　長尾　禎子
同協議会内組織「和会」（獅子舞グループ）
代表　　熊代　厚子
同上　　広報担当　小林　尚子

人材発掘・育成のテーマ

下山手青年団の獅子舞の継承等を通じた人材の発掘・育成

人材の発掘・養成方法

○子供獅子舞の地域での実演を通じて、青年団活動の魅力や楽しさをＰＲし、新たな参加者を発掘する。また、参加者の親世代も活動に参画するように勧誘する。
○獅子舞等の案内チラシを、英語、ハングル、ベトナム語等の言語で作成し、地域の外国人等の参加を呼びかけ、異文化交流を図る。

取組の成果

神戸市内ではほとんどなくなった青年団活動であるが、この地域では「和（なごみ）会」として子供獅子舞を中心に積極的な活動を展開。毎週の夜間練習等に裏打ちされた、はつらつとして楽しげな演舞は見る人に感動を与え、メンバーたちも観客の喜ぶ顔を見たくてさらに練習に打ち込む。練習の成果を地域の人に見てもらい、青年団活動の魅力や獅子舞の楽しさをみんなにＰＲしながら、活動への参加を呼びかけた。そのような地道な取組の積み重ねを通じて参加者の増加を図った。

外国語をつかったチラシの試作、配布によって地域に住む外国人等の参加を呼びかけた。

【獅子舞の日々の練習】

獅子舞活動の活性化　　21.9.4

地域の祭りなどの場を活用し、現役メンバーが獅子舞の出前演舞を行うとともに、地域行事等の案内チラシを配布したり、参加の呼びかけを行うことで、小学生の入会（３人）に結びつけた。

日々の練習は、毎週１回、金曜の夜と、月に２回、土曜の午前に行うなど、熱心に取り組まれており、新たな仲間が加わったことで、その親や知人なども練習場や演舞先を訪れ、先輩メンバーのやる気を刺激している。意欲の高まりとともに、都市部での地域芸能の継承に対する興味や自覚も強まるなど、青年団の活性化に繋がっている。

筒井八幡神社で獅子舞を実演　　21.10.11

地域の行事の一つ「筒井八幡神社」の祭りに、和会のメンバーも参加し、獅子舞演舞の日頃の成果を、子供御輿のために集まった小学生やその家族、自治会役員らに披露した。新たに加わったメンバーも、練習の成果を生かして、早速、脇方の演舞を担当した。

新しいメンバーに対しては、先輩メンバーが丁寧に踊りを教えてくれるので、練習を重ねるごとに、着実に上達できる。しっかり練習し、また、楽しみながら取り組めるよう、地域の指導者が工夫しながら指導している。

【獅子舞の実演】

【参加チラシ】

下山手獅子舞の参加チラシの試作、配布

青年団活動の新たな参加者の発掘と、外国の方との異文化交流を図るため、参加チラシを試作。「下山手の獅子舞 the shi・shi・mai」と題して、中国語で「楽しい獅子舞」、韓国語で「一緒にやろうよ」などと数カ国語で呼びかけるフレーズを記載し、各方面で配布した。

外国人の方にチラシを配布する機会が少なく、効果を出すのは容易ではないが、地域の活動が関係者の関心を呼び、現在、盆踊り等での異文化交流の実現が検討されている。

連絡先　：　下山手ふれあいのまちづくり協議会　TEL　078-362-5844

伝統行事の活用

実施広場と主な指導者

ふじなしふれあい委員会
会長　森下　周平
地域活動のグループ
代表　岸本　章弘
大田　経之

人材発掘・育成のテーマ

地域伝統行事ダンダカ踊りの復活を通じた若者人材の発掘

人材の発掘・養成方法

○村の若者の取組により、行事が途絶えていた「ダンダカ踊り」を復活し、地域内の人材を発掘する。
○祭りの復活過程等のホームページを作成し、地域の魅力を情報発信する。

取組の成果

地域の伝統芸能「ダンダカ踊り」を復活させようと、最初は若者数名の話し合いから始まり、会合を重ねるうちに、次第に若者の参加が増え、地域の人材が集まるようになった。

このような若者の熱意が踊りを憶えている老人会メンバー等を動かし、踊りの練習が始まり、平成21年８月、20年ぶりにダンダカ踊りが復活し、地域で披露された。

若者が地域行事に参画するきっかけとなり、今後も踊りの継承に向けて取り組んでいくこととしている。これらの取組を今後につなぐため、現在、ホームページの作成に取りかかっている。

【「ダンダカ踊り」の復活に向けた練習】

「何とか復活できないか」若者数名の話し合いから始まった　21.6～7

400 年の歴史をもち、村の繁栄や五穀豊穣等を祈願する伝統芸能「ダンダカ踊り」が、若者の流出とともに踊り手が不足して、長らく途絶。いまは、小学校の地域体験学習の一環として、老人会メンバーが子供たちに演舞指導をしているが、地域では、このままでは伝承が途切れてしまわないかとの危機感がつのっていた。

そのような現状のなか、「何とかもう一度、踊りを復活できないか」と、若者数名が話し合いの機会を持ったことがきっかけで、伝統芸能復活に向けた動きが次第に広がっていった。

伝統芸能「ダンダカ踊り」の復活　21.8.14

若手グループの会合が重ねられるにつれ、次第に参加者が増え、「ダンダカ踊り」や地域の課題を考える人材が集まっていった。このような若手世代の熱意が、踊りを覚えている老人会メンバー等を動かし、踊りの復活を目指す取組、練習が始まった。長期的な取組も視野にいれつつ、その一歩として、短期間で踊りを練習し、夏祭りで披露。20 年ぶりにダンダカ踊りが復活した。

当日、復活の舞いを踊ったのは、老人会メンバーと 50、60 代の世代。地域の幅広い世代が踊りの伝承にかかわる中で、あらためて地域への愛着心が養われるとともに、世代間の交流が図られた。

【夏祭りでの「ダンダカ踊り」】

地域内外との交流促進に向けた情報発信　21.8 ～

「ダンダカ踊り」の復活をめざす地域の姿や、様々な活動、周辺の自然など、地域の魅力を情報発信することで地域内外との交流促進を図ろうと、ホームページを作成することにしている。若手を中心に、多世代がタッグを組み、地域への愛着をもって活動する人を増やし、情報発信活動のスタッフを呼び込むこともねらっている。

また、小学校の山村留学等を通じて地域外にもファンを生み出し、交流の促進を期すなど、地域の魅力の PR や情報発信に取り組むことで、踊りの復活を通じて培われた地域内の絆や交流が、より広がっていくようにと考えている。

【夏祭りでの「ダンダカ踊り」】

連絡先　：　ふじなしふれあい委員会

実施広場と主な指導者

貴崎校区コミュニティ推進協議会
会長　瀧井　輝也
同協議会内組織「よっといで」運営委員会
委員長　山口　秦造
同協議会内組織「よっといで」運営委員会
副委員長　嘉藤　祐子

人材発掘・育成のテーマ

人のつながりを活かした新たな「よっといで」（広場）の運営ボランティアの発掘

人材の発掘・養成方法

○「よっといで」（広場の名称）において、運営スタッフ全員で人材発掘会議を開催しアイデアを結集する。
○各種イベント、研究会を通じて新たなスタッフを発掘・育成し、新たな講座等を実施する。

取組の成果

「よっといで」（広場）を継続していくための運営ボランティアを新たなチラシや役員が呼びかけを行い募集した。あわせて、生活に身近なテーマの出前講座やマスクづくりなどのおためしクラブを開催し、５名のボランティアを発掘し、広場運営に関わってもらった。

また、地域コミュニティ・アワード 2009 に出席し、出展地域の中で共通の取組を行っている伊丹市稲野地区と交流をもつことになり、１月に稲野地区の見学研修を予定している。同時に、新たなボランティアの中に、裁縫の技術を持った方がおり、その方を講師に、新学期にあわせて若い世代の母親を対象に子供のための手さげづくり講座を２月に新規に実施するなど、活動の輪が広がっている。

【出前講座】

出前講座「葬祭の豆知識」の開催　21.8.25

「葬祭の豆知識」という生活な身近なテーマで出前講座を企画し、参加者からボランティアを募っていくことを目指した。

講座に先立ち、人材発掘作戦会議を２回開催し、①ボランティア募集チラシを作成、②現ボランティア２人で、１人を講座に誘い入れる取組を決定、③今後の取組に向けたアンケートも計画した。

結果、講座には、50 名が参加、新たな参加者９名もあった。一方、余裕のある案内や講座の雰囲気づくりが今後の課題となった。

よっといでクラブ「お試し会」の開催　21.10.11、21.11.15

前回同様、作戦会議で、多くの住民に「よっといで」の存在と活動内容を知ってもらい、それを人材発掘につなげていくことをねらいに、多世代が参加できる「お試し会」を開催することを企画した。

「お試し会」では、「小麦粉粘土」「ガーゼマスクづくり」「料理」「映画」などのプログラムを実施し、約 80 名の参加があり、体験行事として好評を得た。これを機会に、よっといで活動への理解と協力を求め、通常の行事に参加を促す更なる工夫が必要である。

【よっといでクラブ「お試し会」】

貴崎小コミセンの支援も活用・行事参加者等から担い手を発見　22.1.29

【伊丹市稲野地区への見学研修】

人材発掘会議や「出前講座」「お試し会」の行事では、貴崎小コミセンのスタッフにより、資料の作成や受付等の運営、案内チラシや報告チラシの作成・配布等の活動ＰＲ、の協力・支援を得ながら、リーダーの負担も軽減しつつ取組を進めた。その結果、数多くの参加者から、ボランティアとして５人の担い手を発掘している。

人材養成としては、アワードの出展地区で、貴崎地区と共通課題をもつ伊丹市稲野地区との交流の機会を得え、稲野地区への見学研修を実施した。貴崎地区のこれまでの取組と対比させながら、自主活動に任されているボランティア運営方法等を勉強し、貴崎地区として参考となる点を意見交換した。

２月には、新たなメンバーによる企画も実施された。今後、研修成果を取り入れた取組に発展させることを目指している。

連絡先　：　貴崎校区コミュニティ推進協議会　TEL / FAX 078-923-6989

新たなイベントの実施

実施広場と主な指導者

安全で安心な活力ある街・青山まちづくり協議会
会長　北山　敞彬
総合企画推進部長　岸岡　孝昭
青山ﾎｯﾄ会議委員　岩崎　俊明

人材発掘・育成のテーマ

既存の地域団体組織を活用した活動現場で企画が出来る人材の発掘・育成

人材の発掘・養成方法

○イベント等の企画を多くの地域住民に任せていくことにより人材を現場で育成する。
○イベント終了後、専門家による振り返りワークショップを開催し、スタッフの能力をレベルアップするとともに、次の企画につなげる。

取組の成果

ふれあいウォークの役割分担で、各構成団体が企画体験の第一歩を踏み出すことが出来た。

また、振り返りのワークショップでは若手や女性など 30 名を超える参加者が得られた。第２回のワークショップでは、参加者主導で次回イベント（昔遊び･伝承遊びフェスティバル）の企画を行い、メンバーが企画・実施を分担した結果、地域から 500 名の参加者があり、フェスティバル担い手の人材育成につながるとともに、地域や伝統に対する地域住民の関心を喚起するきっかけともなった。

通学路安全マップについては、現行は地区ボランティア団体によって作成されたものだったが、ワークショップを通じて、PTA から見直しの提案があり、新たに PTA、子ども会等、地域全体としての関わりが生まれ、今後は新入生を中心にした通学路ウォーク開催予定も組まれるなど、活動の広がりを見せている。

【早朝ふれあい探検ウォーク】

早朝ふれあい探検ウォークの実施　21.8.23

青山まちづくり協議会の構成団体であるＰＴＡ、子ども会、老人会などの各種団体が、「ふれあい探検ウォーク」の実施にあたり、受付、ゲーム、チェックポイント、抽選会等各団体が自ら企画するように役割分担を行い、各団体がそれぞれの持ち場で工夫を凝らして実施した。

その結果、企業、病院なども巻き込みつつ、多くの参加者を得られるとともに、実施メンバーが企画することのおもしろさを体験するきっかけとなった。

ウォークの振り返りWS、新規企画WSの実施　21.11.14、21.12.12

コミュニティ応援隊の松原永季氏を招聘して、各種団体が役割分担して実施した「青山ふれあい探検ウォーク」の振り返りと次回のイベントの企画案作成のために、ワークショップを全２回開催した。

男女を含めて多様な世代から 30 名を超える多くのスタッフが積極的に参加し、お茶を飲みつつ自由でくつろいだ雰囲気を演出しながら、活発に意見交換を行った結果、「昔遊び・伝承遊びフェスティバル」の実施案が作成されるとともに、地域の有志で作成されていた通学路マップを改訂するという企画が持ち上がった。

【ウォークの振り返りワークショップ】

【昔遊び・伝承遊びフェスティバル】

昔遊び・伝承遊びフェスティバルの開催、通学路マップの改訂　22.1.17

ワークショップで作成された案を元に「昔遊び・伝承遊びフェスティバル」を実施した。ウォークラリーのふり返りを踏まえて企画を行うことができ、初めて実施したイベントにもかかわらず、500 名を超える参加者を集め、地域や伝統に対する地域住民の関心を喚起するきっかけともなった。

地域の有志の作成によるものだった通学路マップは、ＰＴＡ等地域全体のアイデアと視点が生かされ、今後は新入生を中心にした通学路ウォーク開催予定も組まれるなどの広がりを見せている。

連絡先　：　安全で安心な活力ある街・青山まちづくり協議会　TEL / FAX 079-267-5400

実施広場と主な指導者

久下自治振興会
会　長　　篠倉　義弘
活動推進員　久下　秀和

人材発掘・育成のテーマ

単位自治会長等のスキルアップと意識改革

人材の発掘・養成方法

〇単位自治会の会長等の意識付けとスキルアップを図るための、地域主催の研修会等を開催する。
〇研修会の経験を共有し、次に生かす場を設定し、地域への愛着を定着させる。

取組の成果

22 に細かく分かれている自治会の会長や PTA、老人クラブ等の長を対象とした研修会の開催により、地域活動の基本となるこれらの組織のリーダー等が、組織運営をスムースに行うためのノウハウを獲得したり、地域資源を再発見する機会となった。

また、研修会終了後にアンケート調査を行い、学んだことを振り返るとともに、そこでの気づきをワークショップの開催を通じて共有することにより、お互いの繋がりを生み、地域が取り組むべき課題を明らかにし、参加者への地域リーダーとしての意識付けを図った。

【拠点施設】

単位自治会の会長など、リーダーのスキルアップが課題

久下自治振興会は平成 19 年３月に設立され、７回にわたり住民参加によるワークショップを開催し、「川ボタルの飛び交う健康の里・久下」という基本目標が定められた。

この目標のもと、地域が一体となった取組を進めていくためには、自治会をはじめとする各団体のリーダーの役割が大きいが、当地区は、自治会が 22 と細かく分かれているうえ、持ち回りで自治会長を決める地域があるなど、必ずしも地域のリーダーとして自覚と実績のある人ばかりではないという課題を抱えていた。

リーダー研修会の開催　　21.7.25、10.25、11.10

そこで、組織運営のスキルや地域づくりの意義などを学ぶため、外部の専門家を講師として３回にわたる研修会を開催した。（仕事を持つ人も多いことに配慮し、土日か平日の夜間に開催。）

第１回「会議の運営議論の進め方について」
（神戸大学大学院農学研究科助教　中塚雅也）
第２回「地域リーダーの役割について」
（丹波の森研究所専門研究員　横山宜致）
第３回「地域づくりについて」
（丹波の森研究所研究員　山本　茂）

【リーダー研修会】

【振り返りワークショップ】

振り返りのためのワークショップ　　22.2.20

研修会終了後、自治会長などに対して行ったアンケート調査の結果をもとに、ワークショップを開催し、研修の成果を振り返った。

具体的には、研修会を通じた学びや気付きを踏まえながら、これからの久下地区をより良くしていくための取組について意見交換を行い、例えば、休耕田で花を栽培して、地域ぐるみで世話をしていくことによって世代間をつなぐとか、商店街の空き家等を若者が集まる場にして、若者に地域のことを考えてもらうと行ったアイデアが出された。

連絡先　：　久下自治振興会　TEL / FAX 0795-77-3333